

# あいち病害虫情報 最新情報

令和 7 年 10 月 17 日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 向こう 1 か月の気温は高い

名古屋地方気象台10月16日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か少ない見込みです。

## 果樹カメムシ類に注意！

果樹カメムシ類について、フェロモントラップのツヤアオカメムシの誘殺数が9月下旬から10月上旬にかけて一部地域で増加しています。また、一部ほ場において、カンキツでツヤアオカメムシの被害が確認されています。向こう1か月の気温は高いと予想されているため、カキやカンキツなどの果実への被害が続くおそれがあります。ほ場での発生状況に注意し、発生を確認したら防除しましょう。

## モモ、ウメのクビアカツヤカミキリに注意！

クビアカツヤカミキリの被害が拡大しています。被害樹からは、フラス（幼虫のフンと木くず、樹液等が混ざったもの）が排出されます。詳細は、7月2日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考にしてください。ほ場をよく観察し、フラスを確認した場合は、幼虫を対象に防除を行うとともに、農業総合試験場病害虫防除室もしくはお近くの農業改良普及課に連絡をお願いします。

## 露地野菜のチョウ目害虫（特にオオタバコガに注意）

10月上旬のキャベツほ場の巡回調査におけるチョウ目害虫の発生量は、コナガはやや少なく、シロイチモジヨトウは平年並の状況ですが、オオタバコガは多い状況です。ハスモンヨトウの発生量は、キャベツほ場では平年並の状況ですが、一部のハクサイほ場ではやや多くなっています。フェロモントラップにおける誘殺数は、コナガ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガでやや多く、ハスモンヨトウでは平年並の状況です。今後も気温は高いと予想されていることから引き続き注意が必要です。ほ場をよく観察し、発生が確認されたら適宜防除しましょう。オオタバコガについては、本日発表の「病害虫発生予察注意報第7号」を参照してください。

## キャベツ、ブロッコリーの黒すす病に注意

キャベツ、ブロッコリーの黒すす病が近年 11～12 月に多発しており、今後の発病が懸念されます。本病の発病適温は 20～25℃程度とされ、降雨及び強風により発生が助長され

ます。本病は下位葉から上位葉や花蕾へ伝染し、一度発生が拡大すると防除が困難となるため、注意が必要です。早期発見に努め、病徴が進行した株は伝染源となるので、適切に処分しましょう。ブロッコリーでは、一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。本病の詳細については、7月2日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第3号」及び7月16日発表の「ブロッコリー黒すす病情報第1号」を参照してください。

## キャベツ、ハクサイなどの細菌性病害に注意

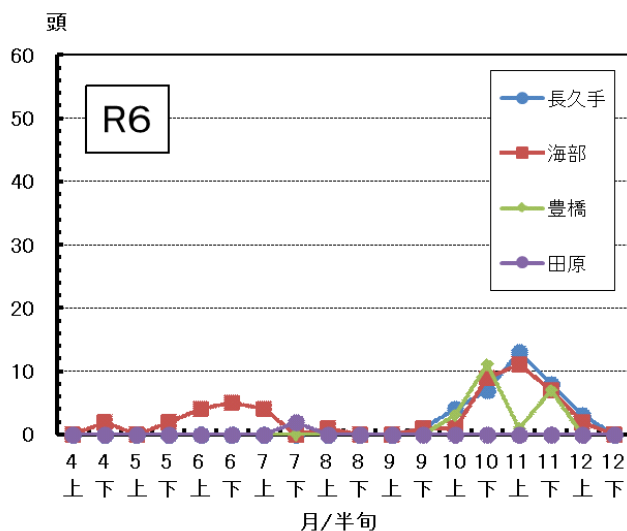
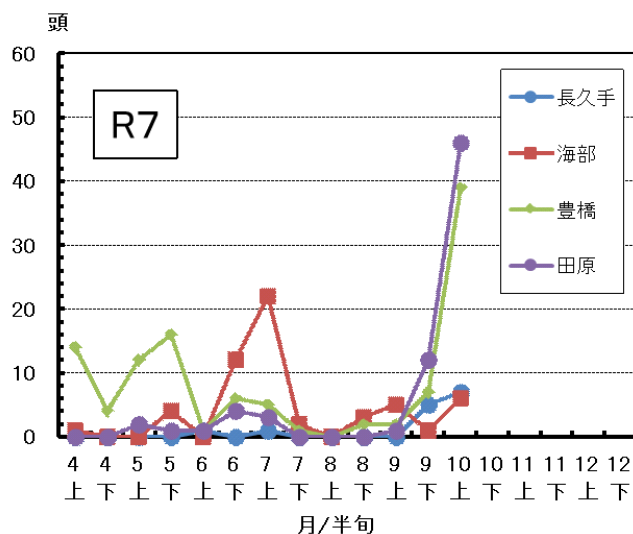
アブラナ科野菜の黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は、降水量が多いと発生が増加します。9月下旬には一部キャベツほ場で黒腐病が発生しており、今後も注意が必要です。ほ場の状況をよく確認し罹病株を発見したら速やかに処分しましょう。また、悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、水はけの悪いほ場では排水対策を行いましょう。

## 施設野菜の病害

トマト黄化葉巻病が発生しているほ場があります。タバココナジラミ（トマト黄化葉巻病ウイルスを媒介）やコナジラミ類（トマト黄化病ウイルスを媒介）の防除を徹底しましょう。曇雨天が続く場合は、トマトすすかび病やナスすす斑病などの病害の発生状況に注意しましょう。

## トマトキバガに注意

フェロモントラップにおける10月上旬の誘殺数は、一部地点で増加しています。農薬による防除を行いましょう。疑わしい被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するか、ビニール袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたうえで、適切に処分しましょう。ほ場で本虫を初確認した場合、最寄りの農業改良普及課または病害虫防除室へご連絡ください。防除対策等については、7月16日発表の「トマトキバガ情報第1号」を参考にしてください。



## イチゴの病害虫

ハダニ類は多発した後では防除が難しくなるので、発生初期に気門封鎖型薬剤や化学合成農薬などを活用し防除しましょう。化学合成農薬を使用する場合は、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。

## ダイズの害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、弥富市で多く、安城市でやや多い状況です。また、オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、安城市、西尾市でやや多い状況となっています。

9月下旬の巡回調査におけるダイズの吸実性カメムシ類の発生量は平年並です。しかし、水稻収穫後の水田からミナミアオカメムシがダイズほ場に移動し、加害する可能性があるため、ほ場での発生状況に注意しましょう。

チョウ目害虫や吸実性カメムシ類の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意して防除しましょう。

## 水稻収穫後の秋期耕うんを行いましょう

ニカメイガやヒメトビウンカ（イネ縞葉枯病を媒介）は、水田畦畔の雑草や水稻の刈り株等で越冬します。また、イネ白葉枯病の病原菌は、主にイネ科雑草で越冬し、次作の発生源となります。越冬量を減らすため、水稻収穫後の耕うんを始めとする、秋期管理を実施しましょう。詳細は、10月1日発表の「水稻の秋期管理情報第1号（ニカメイガ、イネ縞葉枯病、イネ白葉枯病）」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室

TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820